

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井亀ヶ沢1736-244		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2191700117-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」グループホーム楓は車椅子となっても安心な設備を整えてますので、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けて頂く事ができます。住む人、働く人、訪れる人、すべての人の心落ち着く癒される五感で想い、感じる建物と庭園が一体となる和モダンの造りとなっています。自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や地域の方を交えた施設行事を行い、入居者様と地域住民の皆様が顔馴染みの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域全体が高齢者福祉への理解があり、協力者も多い。事業所は行政と情報交換をしながら利用者が安心して暮らせる環境作りに取り組んでいる。無病息災を祈る地域の新春恒例行事「なんまいだ」や「ひな祭り」の際には、事業所に地域住民や児童が訪れており、利用者との交流の機会となっている。事業所としても、積極的に地域と関わりながら対応している。また、家族と共に利用者を支え合うために、日頃から信頼関係を築けるよう努めている。職員の定年制を廃止しており、経験豊かな職員の支援によって、利用者は笑顔で穏やかに暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係性が作れるよう日々努めております。	理念に沿った月間目標を立てている。申し送り時や日々のケアに入る際には、目標を意識し、理念の実践に取り組んでいる。利用者が慣れ親しんだ地域の中で安心して暮らせるよう支援し、事業所は地域に根差したホーム作りを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事に参加をさせて頂き、交流の機会を多く設けております。地域の夏祭りや文化祭、正月行事にも参加させていただきました。	自治会に加入し、区長とも継続したつきあいが出来ている。事業所の行事等を広報誌に掲載した事で、ひな祭りには地域の子ども達が来所し、利用者との交流機会となった。今後も、行事の際は地域住民に参加呼びかけを検討するとしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者様の生活をお伝えし、地域の方々の要望、ご意見をお聞きしたのち、サービスの向上に活かしていくよう努めています。感染予防対策で実施出来なかった事もあります。	運営推進会議は隔月に開催している。行政、複数名の地域代表、家族等の参加を得、希望者には送迎を行っている。活動報告や今後の予定、ヒヤリハット報告等で意見交換を行っている。会議での意見や提案について、職員と話し合いながらサービス向上に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者と相談を行っています。また定期的に市役所に伺い情報交換を行い、協力関係が築けるように努めています。	市担当者と情報交換しながら、相談や要望を伝えるなど良い関係が出来ている。近くの公園整備の際には、要望を伝え高齢者が利用し易い公園になった。市主催の地域ケア会議には積極的に参加し、他の事業所と意見交換しながら運営に活かしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員身体拘束について周知しております。やむ負えず必要になった場合は、ご本人様、ご家族様を含め担当者会議を開催しますが、解除出来るよう随時モニタリング、担当者会議等行い身体拘束解除を目指します。運営推進会議、ミーティングで身体拘束防止委員会も行っております。	身体拘束適正化委員会を定期的に開催している。運営推進会議でも身体拘束について、考え方やケアのあり方を伝えている。拘束の事例はないが、職員のケアが適切であったか、問題はないか等を話し合っている。参加できない場合は回覧にて全職員に周知している。施錠については、危険が伴う以外は行っていない。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の資料を作成し、職員へ周知するとともに虐待防止に努めております。2か月に1度運営推進会議内で廃止委員会を実施しております。	虐待防止委員会は、身体拘束と併せて開催している。人員不足で手がまわらない時に、声が大きくなる事や、利用者が出来る事をさせない事も虐待につながる等、事例を挙げて話し合っている。また、管理者は、職員とコミュニケーションを図り、疲労やストレスを抱えていないか観察し、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、成年後見制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に家族に施設見学を行っていただき、入居時に契約について十分な説明、不明な点があれば理解、納得していただき、ご了承いただけるよう努めています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や電話時に、入居者様に対する要望を確認後、内容を職員間で共有し、入居者の生活がより良くなるよう努めております。また、意見箱を設置し、家族や入居者の意見等を頂けるように努めております。	毎月、行事の写真を載せたニュースレターを発行している。8割程度の家族とLINEでも繋がっており、細かな情報を伝えながら、家族の問い合わせにも対応している。家族の意見は職員間で共有し、より良いケアに繋げている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月日程を決め、定例会議を実施している。定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映できるように努めています。コロナの状況により実施できない月もありましたが職員と情報を共有し意見を集めるなど対応を実施しております。	管理者も現場に入り、ユニットミーティングや全体会議で職員の意見や提案を聞いている。年2回、個別面談も行っている。皆で気づきや意見を共有し、相談しながら改善に繋げている。定年制を無くし、経験豊かな職員が定着している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入る事で職員の努力、勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。	パートも含めた全職員の健康診断を実施するなど、健康で働きやすい職場環境作りに努めている。管理者は、職員の希望休の取得ができるようシフト調整を行い、休憩時間を適切に取れるよう休憩室も整えている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように努めている。管理者も現場へ入る事でケアの質の向上に努めております。	年間研修計画を立てている。管理者は、職員一人ひとりの力量を把握しながら、それぞれがスキルアップ出来るよう取り組んでいる。外部主催の研修情報も周知し、本人が選択して受講している。	外部研修受講は職員の自主性に任せている。職員が働きながら、外部研修を受講し易いよう、勤務調整や受講費用の支援等を配慮するなど、職員の意欲向上につなげられたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、交流をさせていただき、意見交換できる機会を作り、外部との繋がりを持つ他、お互い向上出来るような体制づくりに努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の能力や経験を生かし、施設内での役割を持ってもらえるように努めている。掃除や洗濯物たたみ、食器洗いは利用者様に手伝ってもらっています。利用者本人が食べたいものを食事作りのレクリエーションを企画し実施しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の取れる方は時間を作り話を聞かせて頂いております。困難な方へは家族と相談し、本人の性格や今までの言動をもとに考えております。	職員は、利用者との会話の中で、表情やしぐさ、つぶやき等から思いや希望を汲み取り、タブレット端末や申し送りノートなどに書き留めている。それらを職員間で共有し、利用者の願いが叶うよう支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でのご本人、ご家族の意見、要望を聴かせていただき反映し、介護計画の作成するように努めています。ご家族にも会議に参加して頂けるよう日程調整の電話やメールでの連絡を行っております。	家族の希望は、訪問時や電話、LINEなどで把握している。ケアマネジャーは、職員や看護師から利用者の様子を聞き、様々な個別記録を確認しながら、家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。	今後も、介護計画作成時には、家族参加を呼びかけ、利用者の日常生活、職員との関係などを実際に確認してもらい、家族と共に介護計画を作成する取り組みに期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼、終礼または業務日報や日々の生活記録等に記入。職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めております。	ユニットごとにタブレット端末があり、日々の支援計画や個別記録、業務記録を見ることが出来るようにしている。また、申し送りノートや口頭でも情報を共有し、ケアに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様に関わり、ケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるが、他種の方法があるのではと、小さな事から職員に、課題として提供し、多機能化に取り組んでおります。	買い物や行政手続き等の代行等、本人・家族の要望に応えている。また、利用者一人ひとりの状態に適した福祉用具を提案したり、終末期にある利用者には、利用者の希望に沿った生活が送れるよう、細かな支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が以前の生活により近い暮らしが出来るように本人やご家族に協力してもらい地域資源を把握し出来る限り利用させていただきご本人の意向に添えるよう努めさせております。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への付き添い支援や月に2回の往診の手配等、ご家族の希望を大切にし、納得がえられたかかりつけ医との密な連携をとり、適切な医療を受けられるような支援を行っています。	かかりつけ医は、本人・家族が選択できることを説明している。現在、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。看護師職員は利用者の日常的な健康管理を行い、職員の相談にも乗っている。かかりつけ医、看護師、管理者が連携し利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院等には、早期な情報提供を行い、受診が円滑に行われるよう努めています。	救急搬送を含め、医療機関との対応は管理者が行っている。入院時には、利用者の情報を提供し、病院と連携しながら早期退院に向けて話し合っている。管理者は利用者の状態を見ながら、職員と共に受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化、終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明しています。また、その状況に応じてかかりつけ医の協力のもと話し合いを行い、ご本人様、ご家族様の希望によっては施設での看取りをさせて頂いております。	契約時に事業所の指針を説明し、事業所で出来ることを説明している。本人・家族の希望を確認し看取りにも対応している。看取りの勉強会や看取り後には振り返りを行いながら、管理者は、職員の精神的ケアについてもサポートしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、緊急搬送等、随時看護師より指導、実技講習を定期的に行い実践力の向上に努めています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は消防署の立ち入り検査)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しております。また非常時には地域の方の協力が得られるような体制作りにも努めています。	年2回消防署協力の下、防災訓練を行っている。今年度は夜間想定訓練に家族も参加し、運営推進会議で報告している。今後は地域の声も参考に、地震や水害等の訓練を計画し地域との協力体制作りをめざしている。地域の防災訓練にも参加しており、連絡網には地域住民の名も連ねている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格の尊重、尊厳を守れるように日々傾聴し、その方に合った言葉かけを行うように努めています。	職員は、権利擁護、プライバシー保護、傾聴について学んでいる。利用者の行動を制限することなく、自己決定を尊重しながら、見守りで支援している。職員は常に笑顔で声掛けし、声の大きさやトーンにも配慮するよう心掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活での思いや希望を傾聴しご本人様からの自己決定ができるよう支援させていただいてます。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様の一人ひとりのペースや生活リズムを大切にし、支援をさせていただいております。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割や、食事の配膳、下膳等その方に出来る事を行っていただくように心がけ毎日にハリのある生活を送っていただけるよう支援をさせていただいております。	食事は、調理担当職員がご飯と汁物を作り、副食は配食サービスを利用している。器は陶器を使い、箸、スプーンなどは利用者に適した自助用具を選択し、適切な食事形態で提供している。おやつ作りは、利用者が主となって作業し、楽しみのひとつとなっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や体重の変化を把握し、食事の提供を行っています。水分補給に関してはご本人の希望の飲み物を伺い提供させていただいております。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握が出来るよう努めています。また口腔ケアが出来る限りご本人で行えるよう支援をさせていただいております。	毎食後に口腔ケアを行っている。自立支援を基本に、出来ない部分は職員が支援し、定期的な義歯の洗浄や歯ブラシの衛生管理も行っている。治療の必要な時は家族に連絡し、歯科医の往診に繋げている。今後、口腔ケア研修を予定している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様のそれぞれの排泄パターンを把握する事で排泄の失敗がないような支援を行っています。可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように支援をさせていただいております。おむつ業者にも協力してもらい勉強会を行ったり普段より連絡を取り合って協力体制を構築しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日は決めさせていただいてますが、個々に合わせて随時希望を確認し、希望に沿えるよう支援させていただいております。マンツーマンで対応しゆっくりとリラックスできるように対応をしています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活リズムに合わせてそれぞれに合った生活が送っていただけるよう支援させていただいております。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成している事や看護師からの情報伝達が随時行われており、業務日報、朝礼にて周知徹底し介護士全員に症状の把握に努めております。	薬の管理を徹底し、朝・昼・夜など、色付けした袋で誤薬がないよう工夫している。服薬支援は、複数の職員でチェックし、薬の変更時は業務日報にも記録し情報を共有している。利用者の体調変化に注意し、変化が見られた場合は、管理者や看護師に伝えている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの趣味や生活歴に合わせて、毎日楽しくご本人のペースに合った生活が出来るよう努めております。	利用者の得意な事や趣味を把握し、継続できるよう支援している。俳句を詠んで半紙に書き、居室前に貼り出す人、縫い物や編み物が得意で作品作りを楽しむ人など、日々の暮らしの中で好きな事をできるよう支えている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に地域のお祭りや、喫茶店、近くのお店に買い物に行く等外出、外泊が出来るよう支援させていただいております。本人の行きたいところ、馴染みのある場所へ行けるようにしています。	日常的に近隣を散歩し、公園にも出かけている。年間行事計画を立て、ドライブや買い物、食事などへの外出支援を行っている。また、地域のイベントに参加したり、夏祭りには家族の協力も得て、出来るだけ外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭に関しては施設での管理としています。個人で少しの現金をお持ちの方もみえ買い物などの外出時に自分で支払いをして頂くこともあります。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話が出来る環境があるため、遠方の家族や知人と顔を見ながらの会話が楽しめます。また、手紙のやり取りに関しましても、ご本人やご家族のご意見に合わせて支援させていただいております。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的となっており外の光を感じられるように工夫しております。庭園には楓の木や花壇があり、一年を通して、四季を感じて頂ける工夫をしています。	共用の空間は天井が高く、開放感がある。廊下は車椅子の利用者同士が安全にすれ違えられる広さがある。大きな窓からは、シンボルツリーの楓の木や外の景色を眺めることが出来る。テーブル周りにもゆとりがあり、安全安心な環境である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は開放的となっており外の光を感じられるように工夫をしています。庭園には楓の木や花壇があり、一年を通して、四季を感じて頂ける工夫をしています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、生活環境に変化があっても、混乱を防ぎ、ご本人が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の意思表示出に対し、出来る事を理解して頂き、今持つ「できる能力」のなかで、ご本人が自立心をいだけただけるような生活、役割を職員と共に考え、支援しております。		